

— 巻頭言 —

生きる力を育む統計指導のすすめ

数学部会長 川島 剛

本部会の活動に対し、日頃よりご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

各学校におかれましては、平成 21 年 3 月告示の高等学校学習指導要領及び平成 22 年 3 月 11 日付県教育委員会の「千葉県県立高等学校の教育課程の編成方針」に基づき、新教育課程の編成に向けて検討が進められていると思います。

特に数学と理科は 1 年前倒しの平成 24 年度入学生から学年進行で実施されますので、現行の教育課程や新教育課程の他教科との関連から移行措置にも工夫が求められるところです。

数学では今回の改訂において、共通必修科目として標準単位数 3 単位の数学 I が指定され、その中に新たに「データの分析」という内容が入ってきました。説明には、「統計の基本的な考えを理解するとともに、それをを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。」とあります。具体的には、分散などのデータの散らばりと相関係数などの意味を理解し、データの傾向を説明できることを求めています。

この統計的手法を使って、データの特徴を把握できることは、情報社会と言われる現代社会に必要な生きる力の育成にもつながります。さらに、数学科の目標に掲げられている「事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。」を達成するためにも格好の分野です。

授業で手軽にコンピュータと統計ソフトを使えるようになった現在、大切なことは、ある判断や決定を行うために、いかに必要かつ有意なデータを収集し、その目的に合わせて整理・分析するかを理解させることにあると考えます。

統計分野に限らず、数学的活動が一層重視され、特に数学 I と数学 A においては、生徒の関心・意欲を高める課題学習の実施が求められた今回の改訂に向けて、先生方が授業で先進的な取り組みを行って、その効果を多くの先生方に伝えてほしいと思います。そのためにも是非部会での発表はもちろん、この部会誌『 $\alpha - \omega$ 』が活用され、各学校での授業改善に役立てれば幸いです。